

地域ぐるみで取り組みましょう

ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために

【春夏編】

- 全国でジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生が増えています。
- 移植苗の食害を防止するため、田植え前後には、薬剤散布や浅水管理などの防除対策を組み合わせる実施することが重要です。
- 地域ぐるみで取り組めば、さらに効果的です。



ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシ

マルタニシ

ヒメタニシ

- 成貝の殻高は2～7cm程度
- 本貝は、他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じです。また、長い触角とピンク色の卵塊が特徴です。



用水路（水口）の卵塊



移植直後に食害を受けた移植苗



食害を受けやすい
入水口・排水口や周縁部（畦際付近）

- 深水となった部分で被害が生じやすく、食害された場合には、欠株となります。
- 田植え後、約3週間までの柔らかく小さな苗を食害し、特に稚苗を移植した場合に被害が大きくなります。
- 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないでください。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗いましょう。

● 防除対策の詳細は裏面を参照ください。

【春夏編】 ジャンボタニシの防除対策（移植水稻）

移植苗の食害を防止するため、以下の防除対策を実施することが重要です。



○田植え前の石灰窒素（発生量が多い場合に実施）

いつ・どのように

- ・水温が17℃以上の時期に、3～4日間湛水を保った後、石灰窒素を散布。
- ・散布後、湛水したまま3～4日間以上維持し、代かきを行う。
- ・稲への葉害を避けるため、散布から7日間以上後に田植え。

留意事項

- ・魚毒性が高いため、漏水を防止し、散布後7日間は落水・かけ流しはしない。
- ・窒素成分を多く含むため、元肥の量を減らす調整が必要。
- ・使用に当たっては、農薬の容器に表示された使用方法等を必ず確認すること。

(注) 石灰窒素の使用回数は1回のため、秋期に散布した場合には、田植え前には散布できません。



○水口網の設置（水路に発生している場合に実施）

いつ・どのように

- ・水路で越冬した大型の貝の侵入を防止するため、田植え前の入水時から田植え後3週間まで、取水口・排水口に9mm目合い程度のネットや金網を設置。

留意事項

- ・網の目が粗すぎると小さな貝がすり抜け、細かいとゴミが溜まりやすい。



○田植え時の薬剤散布（発生している場合に必ず実施）

いつ・どのように

- ・田植え時に、貝の発生状況に応じて、効果が高い薬剤を全面散布、貝が集まる深水部分への重点的な散布等を実施。

留意事項

- ・確実な効果を得るため、散布後しばらくの間、止水管理が必要。
- ・使用に当たっては、農薬の容器に表示された使用方法等を必ず確認すること。

(例) **メタアルデヒド粒剤**：本貝に対する誘引性があり、摂食による殺貝効果がある。

燐酸第二鉄粒剤：有機JAS規格に適合し使用回数に制限がなく、摂食による殺貝効果がある。

チオシクラム粒剤：徐々に溶け出し、多雨時でも本貝へのマヒ効果が見込め、食害防止効果がある。



○田植え後の浅水管理（発生している場合に必ず実施）

いつ・どのように

- ・水深が浅いと貝の活動が抑制されるため、田植え後約3週間、水深を4cm（理想は1cm）以下に維持。

留意事項

- ・水田内を均平に保ち、水深が深くなる場所を減らすことが重要。
- ・浅水管理が困難な場合は、薬剤散布との組合せにより被害を防止。